TOKOROZAWA

環境・会報

第14号

所沢市環境推進員連絡協議会

発行責任者　会長　斉藤　禮次郎

平成21年度の事業・順調に進行中

会　長　斉藤　禮次郎

本年度も半年が過ぎようとしていますが、当協議会の活動は、休むことなく進行しています。４月には「狂犬病予防注射」会場において啓発・ポケットティシュを６０００世帯の飼い主の皆様に配布しました。６月には「古着・古布・陶磁器の回収」拠点事業を実施し、同時開催の「もったいない市」も定着、その成果を上げて来ております。一部地区によっては寄付金を頂き「所沢市緑の基金」で活かされております。５月３１日の「環境美化の日」には、多くの皆様と共に一斉美化活動に参加し、当摩市長の新所沢東地区の視察等も受けて、より成果を上げる事が出来ました。７月１日の「歩きたばこ防止」キャンペーンも８駅１４ヶ所で実施。この秋には「レジ袋削減・マイバック推進」のキャンペーンや「秋の環境美化の日」（１１月１日）があります。また所沢市全地域の環境推進員が一同に集合し、所沢市のシンボル的な「航空記念公園」の外周道路一斉清掃活動もあり、慣例の視察研修には本年度・環境モデル都市に選定された飯田市に行き、実際に「飯田市環境モデル都市行動計画」の実態を学んで来ます。昨年度好評だった「環境講演会」は、今年度も時事通信社の絶大なる後援を得て村山貢司先生（気象から見る地球温暖化の現状や、異常気象の発生要因と現状等を的確かつソフトな口調で解説する人気の講師）の講演を１月２７日（水）に開催します。更に１月末に「東京ビックサイト」で開催されるENEX2010（地球環境とエネルギー展）の視察も予定しています。

環境推進員の皆様、当協議会を支援していただく皆様と共に、本年度もしっかり活動してまいりますのでよろしくお願いいたします。

平成21年度役員紹介

会　長　斉藤　禮次郎（所沢）
副会長　坂下　幸雄（松井）、　小林　輝邇（富岡）
　　鈴木　興治（新所沢東）
会　計　荻野　義雄（三ヶ島）、毛利　吉成（山口新任）
監　事　峯岸　邦夫（吾妻）、　稲津　昌幸（新所沢）

環境美化デーの市長視察

新所沢東地区　　鈴木　興治

前日の雨で天候が心配でしたが、当日は曇天で清掃活動には願ってもない日和となりました。当摩市長が視察においでになるというので、新所沢駅東口には松葉町を中心に推進員の方々が7時半ごろには集まって準備をしておられました。8時半に市長が到着され、挨拶をいただいた後に早速スタート、駅前の商店街は常に町内の方々が熱心に清掃されておりゴミひとつ落ちていない状態です。ところどころ清掃活動されている方々にねぎらいの言葉をかけながら、市民体育館前の通りに到着、ここは昨年のインターハイの時に枯れた植え込みを除去した所で今回視察していただきたい場所のひとつでした。

その後弥生町歩道橋を渡り、市長も落ちているゴミを拾いながら弥生公園に到着、ここは育成会の子供達が清掃するはずでしたが、前日の雨で美原小の運動会が順延となり参加ができなくなったのが残念でした。

環境美化の日・新所沢東地区

それでも大勢の市民が美化の日の活動を熱心にされているのを、頼もしげに視察されている市長の姿が印象的でした。

平成２１年度　所沢市環境推進員連絡協議会・総会

●総会・懇親会は６月３日（水）西武ドーム獅子にて開催　各事業報告　決算、事業計画　予算の審議がなされました。

上・総会

下・懇親会

挨拶：所沢市自治連合会 原　實氏

『川・特集』所沢を流れる川は時をきざんで変遷しました。住民の意識の変化が大きく影響しています。

最上流の流れをみんなできれいに！

柳瀬川の最上流をきれいにする会　会長　鈴木　良一

柳瀬川の最上流の水質環境や水辺の環境をよくし、水生動物、周辺流域の生物や植物環境を豊かにしていくことを目的に、流域の定期的な川の清掃活動をとおして地域住民相互のコミュニケーションを深め、豊かな自然環境をみんなでつくっていこうと平成１７年に流域住民により設立、今年で５周年を迎え現在１００名以上の会員が活動しています。

定例清掃日は、毎月第二日曜日さらに、春、秋の「所沢市環境美化一斉清掃日」に合わせた大規模清掃など、"ふるさと柳瀬川は、みんなできれいにしていく"をモットーに清掃活動を行っています。

また、家庭からの生活排水もきれいにして流すなどの啓蒙活動や川を汚さないキャンペーンによる啓発活動も関係団体と連携しながら行っています。

柳瀬川最上流（上山口・高橋）

「たかが川、されど柳瀬川（下流）」

柳瀬川をきれいにする会　第五代会長　並木　常男

柳瀬川をきれいにする会は、平成２年に結成されました。昔、柳瀬川で泳いだり遊んだ経験を持つ４０歳～50歳代の仲間達が盆踊りの二次会で話し合い「柳瀬川を昔のようなきれいな川に戻して子供達にプレゼントしようよ」と会をつくりました。

第一回「柳瀬川クリーン作戦」が実施された８月２６日松戸橋から川に下りようとしたが、草の背丈がありなかなか川面にたどり着けないほどでした。川に入るとヘドロがひどく、臭くてくさくて大変、約２時間で捨てられた自転車や冷蔵庫、洗濯機にバイクなどを拾い上げ、エンジン付草刈機で伸びきった草を刈ったりしたので全員ヘトヘトになってしまいました。作業が終わったらビールで反省会でしたが、臭くてびしょ濡れの作業着を取り替えなければ、とてもバーベキューを食べられないほどでした。反省会は大いに盛り上がり、年３回のクリーン作戦やザリガニや小魚やコイの放流などを決めたのだから「協力しあう、汗を流しあう」ことは素晴らしいことだと思いました。

以来５５回を超えるクリーン作戦で拾い上げた自転車は１００台以上、バイクや冷蔵庫に洗濯機、風呂桶など数え切れないほどの「人間が捨てたゴミ」を拾い上げましたが「継続は力なり」の格言どうり、現在ではアユが遡上するほど柳瀬川はきれいになり見事に蘇りました。

この間、歴代市長も激励に来てくださり平成５年には埼玉県の「河川浄化団体」に認定され、平成７年には環境省の「水環境賞」も頂き、平成８年には「所沢市河川浄化団体」として年額１０万円の補助金も頂けるようになり資器材も整えられるようになりました。

そして本年、当会は20周年を迎えることなり、記念事業として「柳瀬川にサケを放す親子の集い」を２月に開催、「元気に戻ってきてネー」と3000匹を放流できました。４月にはアユのあかちゃん6000匹を松戸橋から放流、夏には大きく育ったアユが釣れると思います。

近い将来「柳瀬川のアユの塩焼き」が名物になりそうです。夏には泳ぐ子供達も見られるようになり魚釣りをする子供が増えることが、私たち「柳瀬川をきれいにする会」の目標です。ご理解とご協力をお願いします。

柳瀬川上流　清掃

東川（松郷・牛沼地区）の地域環境活動について

「東川を愛する会」会長　越坂部　靜

平成１２年１月に所沢市松井地区のＰＴＡ経験者や地域の人々が集まり、「東川を愛する会」を設立しました。

東川の清掃

東川を地域活動の中心として、自然環境保全のための普及啓発活動、自然環境教育に関する講演・広報活動、河川の浄化・清掃に関する活動、その他周辺環境の美化　及び維持活動を通じ、地域・学校・行政との交流の橋渡し役として活動を行っています。

毎年３月下旬、地元環境推進員さんのご協力を頂いていることはもちろんですが、地元町内会や川越県土整備事務所・所沢市役所のご協力のもと「東川桜通り」と呼ばれる河畔の清掃を通じた身近な自然の保全活動をしており、最近では地域の方々の生活サイクルの中に入って来て地元の皆さんが毎日ゴミ拾いなどをして頂けるようになりました。

また、所沢市の協力による「花と緑のオアシスづくり推進事業」という環境保全の活動を通じ、地域の方々との連携を深め、アジサイやコスモスも植えたりして地域環境も大変良くなり近くの保育園の園児も遊びに来ています。

小さなことですが私たちの活動が地域の環境美化及び保全に関心をもってくれる気持ちが育ってきたことを喜び、これからも環境保全の活動にも力が湧いているところです。

不老川 / 市民活動賞（読売新聞社賞）受賞

前号で「不老川今昔と水質浄化推進に想う」を紹介しました。洪水対策で川床及び護岸工事などにより河川敷は破壊され、改修工事の名目で全てが直線化され自浄力のない「汚水」で1983年から３年間日本のワーストワンと指摘を受けました。以来31自治会が参加し近隣住民の川底清掃、河川敷の草刈、植木の植栽手入れなど幅広い活動に取り組み９８年には流量を確保する行政事業も始まりました。これら一連の活動に対し本年、市民活動賞受賞することになり一層の住民活動に力が入っています。（三ヶ島地区）

環境コラム　蜜蜂が消えた

柳瀬・丸山　千尋

"リンゴの木は、あふれるばかりの花をつけたが、耳をすましてもミツバチの羽音もせず静まり返っている。花粉は運ばれず、リンゴは実らないだろう。"

上の文は1962年アメリカの生物自然科学者レイチエル・カーソン女史が農薬や殺虫剤による環境汚染を危惧し発表した「沈黙の春」の冒頭部分である。当時、内容があまりに過激だったため寓話という形式をとったがそれでも庶民は驚き為政者はうろたえ農薬会社は否定・反論に終始した。ところが予言どうり、2006年春ころアメリカで大量の蜜蜂が消滅、その後あちこちで話題になり今年の春にはついに日本でも同じ現象が発生してしまった。その原因は不明。

蜜蜂の消滅が、なぜ問題かというと蜜蜂にはポリネーション（花粉媒介）という果物や野菜に実をならせ育てるという大切な役割を大自然から与えられているからである。これは大気の浄化をうけおっている植物の育成にも関係しているので、蜜蜂の消滅によって花粉媒介が不可能になったら地球の生態系そのものが壊れてしまう恐れもある。

カーソン女史は極度に汚染が進めば本当に沈黙の春がやってくる、その原因は全て人間が自ら招いたわざわいであると結論づけている。最悪の事態を避けるため為政者はともかく、われわれ庶民に今の快適な生活を捨てる勇気があるだろうか。

歩きたばこ等の防止啓発キャンペーン

今年も７月１日（水）午後６時から、市内８駅の１４出入り口で歩きたばこの防止啓発キャンペーンを実施しました。

当日は、各地区の環境推進員230名が参加して、約１時間の間、広く市民に喫煙マナーのご協力をお願いしました。

実施場所　所沢駅東・西・南出入り口、新所沢駅東・西出入り口、小手指駅北・南出入り口、航空公園駅東・西出入り口、西所沢駅、狭山ケ丘駅東・西出入り口、下山口駅・東所沢駅

西所沢駅前

下山口駅前

所沢市ごみ減量・資源化を進める市民会議

所沢市は、「ごみ減量・資源化を進める市民会議」（資源循環推進課）を７月に設置、資源循環型社会の形成に向けて、家庭や事業所から排出されるごみの減量・資源化を進めるための実践活動をどう展開するか検討していくもので、市民参加により設置されたものです。

特に、ごみの減量・資源化に向けて、「生ごみ・資源化部会」、「雑紙・古布剪定枝減量・資源化部会」、「プラスティック類・資源化部会」、「ごみ減量・資源化啓発・普及部会」の部会を設けリデユース、リユース、リサイクルの「ごみの３R」の徹底と実践をどのようにして展開していくか調査研究していくものです。この会議には、公募による市民の他、各地区の環境推進員も多数参画しており会長には環境推進員連絡協議会の斉藤禮次郎会長が選任されています。（毛利、記）

春の古布・古着・陶磁器回収（もったいない市）リサイクル

家庭で使わなくなった古着や古布、使わなくなった陶磁器をリサイクルするため、今年上半期の古着古布・陶磁器リサイクル事業が、５月10日・17日、６月７日・14日の４日間にわたり市内各拠点にて行われました。

古着古布の回収量は４日間の合計で57,350ｋｇ、陶磁器の回収量は合計8,182ｋｇ、参加者延べ人数が7,974人という結果でした。

もったいない市（富岡地区）

環境推進員連絡協議会のホームページご案内

以下をアクセス下さい。
1、所沢市ホームページのトップページを開く
2、「くらし」の矢印をクリック
3、「クラシ」のページの中段「生活環境」の中の「環境」をクリック
4、「環境推進員連絡協議会」をクリック
5、「環境推進員連絡協議会」のページにアクセス完了

◆　訃　報　◆

当連絡協議会で、監事（平成16、17年）会計（平成18、19、20年）としてご活躍されてこられた、大舘一良さん（小手指地区）が、平成２１年８月４日ご逝去されました。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

多くの皆様に読んでいただくために、共通の話題や地域の特徴など協議会会員の皆様と原稿作りをしています。「川・特集」は投稿がきっかけで記事のまとめができました。

編集委員　小林輝邇・丸山千尋・毛利吉成
事 務 局　所沢市役所環境クリーン部生活環境課
ＴＥＬ　０４−２９９８−９３７０